



節分にちなみ一人一人鬼のお面を付けて「豆まき」をしました。



2月3日の節分にちなんで、1日(金)に全園児による「豆まき」を行いました。

まず、園庭に10時に集合し、クラスごとに記念写真を撮ったのですが、子どもたちの頭には色とりどりの「鬼のお面」がつけられています。3学期に入り、今日のために各クラスで製作したものです。

年長組のお面は、「月刊誌の中の付録」を活用したものです。鬼の形をしたお面にクレヨンで色を付けたり毛糸で髪の毛をつけたりしてあります。自分のアイディアで顔の色や髪の毛を作っていたので、とてもカラフルで個性的です。

年中組のお面は、「紙皿」の真ん中をくり抜き、顔が出るようにしたお面です。ハサミで折り紙を切り、ひげやツノを作り、糊を使って紙皿に貼りつけました。また、タックシールを使って目や口、キバなどを作りました。貼る位置が工夫され表情豊かな「鬼の面」に仕上がっています。

年少組のお面は、「大きな茶封筒」を土台としています。封筒の袋の部分が帽子のようになり、頭の上にかぶさります。色画用紙をハサミで切り、自分で「まゆ毛やキバ(歯)」を作って貼りました。まゆ毛や目をどの位置にすると、どんな鬼になるか、表情を確認しながら作ったそうです。

何回も経験しているため、記念撮影はとてもスムーズでした。言われなくても初めから上手にポーズをとる子もいました。

クラスごとの写真撮影も終わり、いよいよ「豆まき」です。園長先生から説明がありました。初めに「歳の数だけ豆を食べると福が来る」ということで、持っている大豆を食べました。次に、「節分」と「豆まき」の由来などについて話を聞きました。「季節の分かれ目：節分」は邪気が入りやすく、特に旧暦では立春のころは当時の新年の始まりだったため、最も大切な節目とされました。そこで「鬼を追い払う邪気祓いの行事」として「豆まき」が始まったそうです。園長先生からも、心の中の「意地悪をする鬼」「すぐ泣いてしまう弱虫の鬼」などを追い出しましょう、というような話がありました。

そしていよいよ「豆まき」の始まりです。園庭には、「青鬼、赤鬼、緑鬼」の3人が子どもたちをにらんでいます。クラスごとに、豆を投げて鬼を退治します。年長組⇒ばんび・年少組⇒年中組の順に「豆まき」の始まりです。鬼に追われ逃げまどう子どもたち。園長先生の「鬼は外」のかけ声で逆襲の始まりです。持っている豆を鬼めがけて投げつける子どもたち。鬼も少しずつ弱っているようです。最後は多勢に無勢、子どもたちの勝利でした。

これからも「日本の伝統的な行事」を大切にしていきたいと思います。【写真】各学年とも工夫されたお面ですね！